地域づくり表彰

せとうちみなとマルシェ実行委員会（愛媛県今治市）

# 「交通の拠点」から「交流の拠点」へ

せとうちみなとマルシェ実行委員会
運営委員長
原（はら）　竜也（たつや）



## １．今治市の概要

愛媛県今治市は、瀬戸内海に面した自然豊かな港町で、建造隻数・建造量ともに国内トップの造船業や日本三大タオル産地のひとつとしてタオル産業で知られています。「今治タオル」は高品質で国内外にファンを持ちます。

また、しまなみ海道の玄関口としても有名で、サイクリストに人気の観光地です。歴史ある今治城や、海の幸に恵まれた食文化も魅力のひとつ。穏やかな気候と温かい人々が訪れる人を迎える、心安らぐまちです。



**上空から見る造船所**

## ２．団体の概要

瀬戸内しまなみ海道の開通により、交通体系が大きく変化し、港から続く商店街を含む中心市街地はかつての賑わいを失っていました。

当団体は、「もう一度今治港の賑わいを取り戻したい。」そんな熱い想いを持った今治市内の各種団体の皆さんが中心となり、今治港が開港 100 周年を迎える 2022 年に「せとうちみなとマルシェ」を開催するため、発足しました。

市民有志、地域団体、事業者、行政関係者など幅広い主体で構成され、学生を含む一般市民のボランティアの協力を得て運営する等、地域ぐるみの運営体制を構築しています。今治造船や今治タオル工業組合をはじめ、地元企業から全国展開の事業者まで多数が協賛し、活動基盤を支えていただいています。地域の産品や文化を楽しむ場を提供することで、今治への愛着を持つ人を増やし、関係人口の創出に貢献しています。



**早朝からのボランティア活動**

## ３．活動の概要

「せとうちみなとマルシェ」は、“瀬戸内の「うまい！」に出会える海辺のマルシェ”をキーワードに、今治港のにぎわい再生を目的として、毎月第２、第４日曜日を基本として開催される定期市です。（夏季は第２、第４土曜日）



**せとうちみなとマルシェ会場**

## ４．活動の内容

**【「交通の拠点」から「交流の拠点」へ】**

かつて交通・物流の拠点であった港の特性を活かし、地域住民や観光客が集い、交流できる“港の社交場”としての空間を創出しています。マルシェには今治市内外から多様な出店者が集まり、地元の農水産物、加工品、雑貨、キッチンカーなどを通じて地域の魅力を発信。また、音楽ライブやワークショップ、ダンスイベントなどの文化的な催しも交えて、幅広い世代が楽しめる場となっています。



**賑わいを見せる会場の様子**

**【続ける力で未来をつくる。港に根づくマルシェへ】**

「せとうちみなとマルシェ」は、定期開催による継続性の確保により、安定した集客と出店を可能としています。

「せとうちみなとマルシェ」の開催には、ボランティアの協力が必要となりますが、お客様からの問い合わせについて、一括で本部での対応としたり、昼食（夏季は夕食）を提供するなど、過度の負担が無いように配慮しています。

このように、継続して参加していただけるような体制を整えていることから、地域ぐるみの活動として定着しつつあります。

**【せとうち発、交流のマルシェ】**

出店料を抑え、収益の１０％を手数料とし、出店しやすいような環境とすることにより、市内外の多様な事業者に参加していただいています。ボランティアを登録制とし、マルシェを機に異業種・世代間交流を芽生えさせ、地域活力の造成、地域参画による郷土愛の醸成を図っています。

特に、次世代の担い手の育成を狙いとして、学生の出店については、出店料を無料としています。マルシェに参加することによって、こうした地域活動への興味を持ち、理解を深めていただければと期待しています。




**地元高校生による花き販売**

**【港から広がる“交流”の新しいかたち】**



**夏のビアフェスタ**

夏は夕暮れのディナーを、クリスマスにはLEDランタンを宙に浮かべるなど、季節に合わせたイベントを実施しており、今後も様々な切り口から集客性のある企画を立案・運営していきます。また、併設イベントと連動させることにより、内容の充実を図っています。



**サンリオパレードとのコラボ**

令和６年度は、マルシェと連携して、港周辺で「サンリオスペシャルパレード」など多彩な地域イベントを開催した結果、7 万人以上の来場者を動員し、大いに盛り上がりました。

**【歴史ある「港」を活かした“まちの顔”づくり】**

今治港はかつて交通・物流の拠点として栄えましたが、時代の変化で衰退していきました。その「港」という歴史的資源を舞台に「マルシェ」という形で再生し、新たな交流空間を創出しています。

穏やかな瀬戸内の海のクルージングを企画するなど、サイクリングルート「しまなみ海道」の玄関口という立地を活かし、観光客・サイクリストが立ち寄る場に。地域資源と観光資源の相乗効果を生んでいます。



**マルシェ名物「せとうちみなとマルシェクルーズ」**

**【瀬戸内の「うまい！」に出会える海辺のマルシェ】**



**マルシェ名物「鮮魚の競り市」**

瀬戸内海の新鮮な魚介や、柑橘類など農水産物を直接販売しています。特に「鮮魚の競り市」は、港ならではのイベントとして好評です。併設された厨房でプロが下処理を行うサービスを実施しており、気軽に参加でき、今治の食文化と漁業資源を体験的に発信しています。今年７月の渋谷での「IMABARI 広場」開催時には、マルシェの鮮魚の競り市をオンライン中継。都市部住民へ直接体験を届け、今治の魅力を広域に発信しました。また、今治のご当地グルメである「焼豚玉子飯」の他、地元食材を使った商品を販売する多彩なキッチンカー出店を通じ、地域の味を新しい形で普及しています。



**オンライン「鮮魚の競り市」**

**５．活動の成果**

**【経済効果 12 億円、地域の誇り育むマルシェの力】**

2023 年 11 月から 24 年 10 月の 1 年間で、いよぎんホールディングス傘下のいよぎん地域経済研究センターが経済波及効果を試算したところ、12 億 2200 万円に上りました。これは、事業費に対して 45.38 倍の経済効果があった見込みとなります。累計の来場者は子連れ家族を中心に 31 万 7000 人（約 9 割が県内在住者）であり、港のにぎわい再生により、住民が「今治港」と「せとうちみなとマルシェ」を、“まちの顔”としての誇りを持てるようになりつつあると感じています。

**６．課題と展望**

**【広がり続ける挑戦。10 年先もにぎわう港に】**

鮮魚競りのオンライン中継による今治の魅力の広域発信や、併設イベントと連動させるなど、「点」から「面」への事業展開を行っています。

「10 年・20 年と続ける」長期目標を掲げ、造船・タオル等の地場産業、食、文化といった地域資源を活用した持続的な仕組みづくりに、今後も取り組んでいきます。

「せとうちみなとマルシェ」は、単なるイベントではありません。港という地域資源を活用し、人とまち、人と人をつなぐ取り組みであり、また、地域の魅力を再発見し、未来へと引き継ぐプロジェクトです。

これからの「港のにぎわいの物語」に、ぜひご注目ください。